

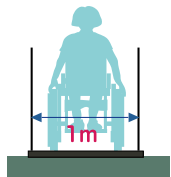
# インクルーシブな遊び場を創る

子どもたちにとって「遊び場」とは、成長する過程においてとても重要な学びの場でもあります。多様な個性を持つ子どもたちが個々の運動能力を高め、共にコミュニケーションを取る場所として必要とされるインクルーシブな（だれもが利用できる）遊具が求められています。ナカムラはそうしたご要望にお応えできるよう、様々なバリエーションの遊具をご用意しているとともに、遊び場のニーズに合わせてカスタマイズすることもできます。また、ベーシックな運動施設等も併せてご提供しています。

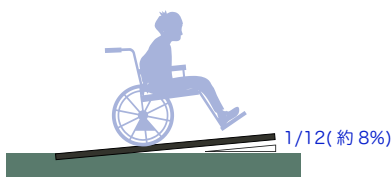
## Point インクルーシブな遊具—デザインのポイント

### ● 皆が使いやすい Accessibility

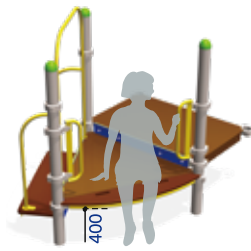
ナカムラのインクルーシブモデルでは、車椅子を利用する子ども達も移動しやすいようにデザインしています。車いすから降りて遊べるタイプと車いすのままデッキで遊べる2タイプがあります。車いすから移動し易い高さ、登りやすい通路幅とスロープの傾斜をとっています。



車いす移動モデルでは、通路幅1mを確保しています。



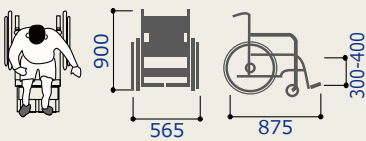
スロープは、車いすでも登りやすい1/12(約8%)の傾斜です。



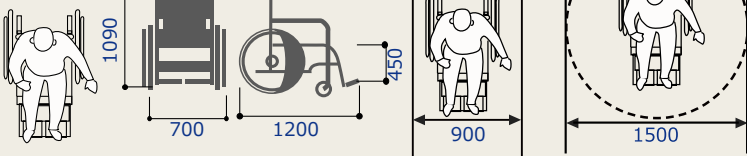
アクセスデッキは車いすから移動しやすい高さと同幅、手摺を備えています。

### ● 車いす使用者の寸法

子ども



おとな



### ● 落ち着く配色 quiet colour

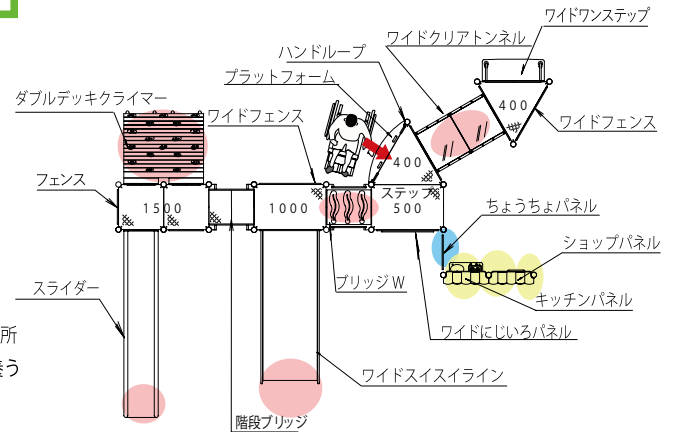
子どもの中には刺激的な色に敏感な子もいます。遊具本体のベースカラーは、心落ち着くブルーとライトグレーを基調とした配色。登り口、手摺などは視覚障害者にも見分けやすいイエロー、アクセントにライトグリーンを配したデザインにしています。



## ● 遊びの配置と動線の工夫 Zoning

子どもたちの動線を考慮して遊具を配置しています。遊びの種類も散りばめて利用しやすく楽しさもアップします。

- アクティブに動く場所
- 疑似体験等感性を養う
- 思考力を鍛える



## ● 多彩な遊びの種類 Interesting

できるだけ多くの子どもたちがワクワクして楽しめる遊びの要素を取り入れています。登って下りる、くぐるなど身体能力を伸ばす遊び、疑似体験をするなど感性を養う遊び、思考力を高める遊びなど子どもの能力を楽しく伸ばします。(詳細は次頁に説明)

身体能力を伸ばす

創造力・感性を養う

思考力を高める

クールダウン

## Option

### ● 遊具の設置面の仕上げ Safe surface

アクティブに遊ぶ子どもたちが安全に遊ぶことができるように、遊具の設置面はクッション性のあるもので舗装することを推奨しています。



### ● 地域の特徴を表現 Customizing

地域の特性や遊び場を使う子どものニーズに合わせて遊具を選択しカスタマイズするとインクルーシブな価値が付加されます。



海沿いに船の遊具

扇を模した遊具

### ● 見守るひとにも配慮 All universal

遊び場には子どもを見守る大人にも配慮したユニバーサル仕様のベンチなどの設置も大切です。紫外線を避けるシェルターなど快適な遊び場を創出する休憩施設や周辺施設もご用意しています。



## ● 多彩な遊びの種類

遊具には、いくつかの遊具を組み合わせた複合遊具と、1つの遊び道具として成り立っている単体遊具があります。それぞれ対象年齢も定められています。

ナカムラでは、子どもの能力を楽しく伸ばす遊びの種類を以下の3つのカテゴリーに分類しています。

①身体能力を伸ばす遊び、②感性を養う遊び、③思考力を高める遊び、です。

これにインクルーシブな遊具の特徴として、心の癒しにスポットをあてた休憩、隠れ家的なスポットの遊具もクールダウンとして加えています。

### 複合遊具

いくつかの遊具、或いは遊びのパーツが複合してひとつにまとまった遊具です。

組合せによって、様々な遊びを体験することができます。

パーツの数を調整して、場所の規模や形状に合わせることもできます。



### 単体遊具

1つの遊び道具として成り立っている遊具です。

配置や組合せによって、様々な遊びを体験することができます。

遊具どうしが近くなる時は安全領域の確保に気を付けてください。



ステッパー・ボール



クッション遊具



ブランコ

種類	アイテム	
 思考能力を高める	   そろばんパネル    ちょうちょパネル    ふしぎながみパネル	
 創造力・感性を養う 疑似体験 触れる・嗅ぐ・話す	      キッチンパネル    ハンドルパネル    ショップパネル    窓パネル    カラー窓パネル    トーク     花びら型サンドテーブル    砂場    ファウンテンデッキ(水遊び)    パネル遊具	
 身体能力を伸ばす	<b>すべる</b>  トリプルスライダー  スイスライン 介助ができる	<b>のぼる ぶらさがる</b>     リングクライマー    ウォールマウンテン    サイドクライマー    ジャングルジム <b>はねる・とぶ</b>   ステッパー    ボール <b>ゆれる</b>    複合ブランコ    ロッキング遊具    ゆらゆらボール <b>はう</b>   ワイドクリアトンネル    ワイドフープトンネル  ネット系遊具  クッション遊具
 クールダウン 居心地の良い遊具	<b>やすむ・ ねそべる かくれる</b>	   えほんの家    マッシュルームハウス    カバくん

# Park 公園 インクルーシブ公園のご提案

## ナカムラの考えるインクルーシブ公園・遊具

ナカムラの目指すインクルーシブ公園・遊具は、その場所に訪れる人々が楽しく過ごせる地域に密着した公園づくりと考えております。

インクルーシブな遊具を置くことだけでなく、公園全体がひとにやさしいユニバーサルなインフラを整えることが重要です。

## 大きな規模～比較的大きな規模の遊具広場

大きな公園(総合公園・運動公園等)から、比較的大きな公園(地区公園や近隣公園等)に整備される大きな規模の遊具広場の一例です。大きさは、1,000㎡～5000㎡くらいを想定します。公園のニーズにもよりますが、スロープのついた大きなユニバーサル仕様の複合遊具を中心として、遊びの種類に応じたゾーニングが可能です。

大規模な遊具広場では、動線に沿ってバリアフリー型のトイレや駐車場が必要となるなど、公園の規模に応じてインフラを整えることが重要です。地面の段差をできるだけ解消、或いは手摺やスロープで補い、安全上の問題をクリアします。車いすや杖の使用者が入りやすいエントランス、通路幅、適度な間隔で休憩施設があることが大事です。



車いす使用者と共に休む

### 大型都市公園の遊具広場のイメージ

大型都市公園では、園内に設けられている遊具広場に辿り着く経路がバリアフリーであること、その中の施設が全ての人にやさしいことが大事です。



車いす使用者対応のピクニックテーブル



車いす使用者対応のサイン



スロープにユニバーサル仕様の手摺を設置



ユニバーサル仕様のトイレ



真夏のお昼に直射日光を97%遮断するブラインドパーゴラで休憩スペースに。



幼児ゾーンは安全のためゴムチップ舗装が推奨される。



大規模公園のインクルーシブに配慮した複合遊具は遊具の内部も車椅子で楽々移動できる。



## 小さな規模(500㎡前後)の遊具広場

大規模公園の一部遊具広場や、街区公園などの遊具スペースは、小さめの面積(500㎡前後)でも、遊具の選び方によって、ユニバーサル仕様の複合遊具を設置、または単体遊具の組合せにより、インクルーシブな遊び場を創ることができます。

500㎡前後の遊具広場のイメージ



障がいのある子をサポートできるブランコ



長時間子どもを遊ばせる休養施設は日影が大事。

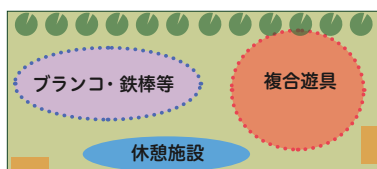


小規模公園でもインクルーシブにデザインされた複合遊具を設置することができる。

## 小さな規模(200㎡前後)の遊具広場

街区公園の一部や、提供公園の遊具スペースについては、遊びの種類でゾーニングしたり、全てをユニバーサル仕様にすることは難しいですが、動線の確保やユニバーサル仕様のベンチなどを配置することで、ユニバーサルに近づけることが可能となります。地域のニーズによって、シニアのための健康遊具などを設置することも大事です。

200㎡前後の遊具広場のイメージ(参考)



一般に設置される水飲み等の設備から車いす使用者対応にしていくとよい。



子供達の遊具スペースと大人も楽しめる健康遊具のスペースを配置した実例。



小規模の遊具スペースにコンパクトなインクルーシブモデルの遊具を配置した例。

## 遊具設置の規模の目安

東京都の「だれでも遊べる児童遊具広場」整備ガイドラインの空間単位を元に作成。

### 大きめの複合遊具

大規模公園(総合公園・運動公園)の遊具広場の一部、中規模公園(地区公園・近隣公園)の遊具広場に推奨。



15 × 15 m 以上  
(225 ㎡～)

### 小さめの複合遊具

大・中規模公園の遊具広場の一部、街区公園などに推奨。



幼児用

5 × 7 m 以上  
(35 ㎡～)

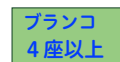


児童用

8 × 10 m 以上  
(80 ㎡～)

### 単体遊具など

提供公園、屋内他、大規模遊具の周辺に設置推奨。



ブランコ  
4 座以上

8 × 11 m 以上  
(88 ㎡～)



ブランコ  
3 座程度

8 × 7 m  
(約 56 ㎡)



クッション  
遊具

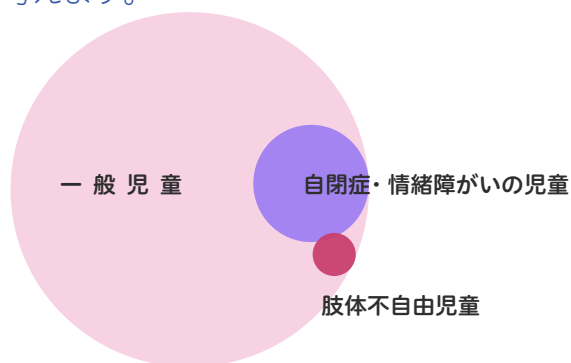
Φ 10 m  
(約 79 ㎡)

# School 小学校

## ベーシック遊具からインクルーシブまで

少子高齢社会といわれる現在の小学生たちは、昔のように外で遊ぶ機会が減っているようです。だからこそ、皆で楽しく一緒に遊ぶ機会が大切になってきます。

現在は肢体不自由等を持つ児童だけでなく、自閉症、情緒障がいの児童が普通学級に通う割合が増加しています。ナカムラは心のケアにも配慮して、それぞれの個性が伸ばせるような遊具を考えます。



※通常学級に在籍する小中学生の8.8%に、学習面や行動面で著しい困難を示す発達障がいの可能性がある。(2022年文部科学省調査より)

※知的障害や自閉症のある幼児・児童生徒の中には、運動量が少なくなり、結果として肥満になったり体力低下を招いたりする傾向が見られる。(国立特別支援教育総合研究所資料より)

## ベーシック遊具の組合せで運動能力を高める

街中や大都市の小学校では、狭い校庭にも設置しやすい複合遊具が人気です。

ナカムラは、インクルーシブタイプの複合遊具から、ベーシック遊具まで、設置場所に合わせて子どもたちの動線を考慮して遊具を配置します。ご要望に合わせてご提案事例した事例です。

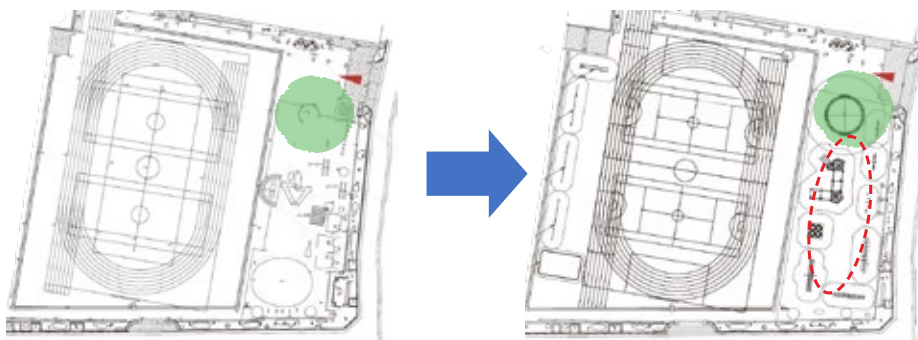


## 皆で1つの遊具で一緒に遊ぶ

ナカムラの遊具は、インクルーシブタイプからベーシックタイプの遊具まで様々取り揃えております。設置場所に合わせてご提案いたします。

### 小学校改修の事例

インクルーシブモデル校として特殊支援学級が併設されている普通小学校の校庭の遊具改修の事例です。古くて危険な遊具を撤去し、校庭全体にゴムチップ舗装をして安全面に配慮しました。インクルーシブタイプの複合遊具を設置し、それを起点として楕円を描くようにベーシック遊具を配置しました。これにより、サーキットのように遊びをつないでいくことができます。また遊具には、座って遊べるものから体力を使う遊びまで様々な段階が含まれているため、特殊支援学級の児童や低学年の児童も一緒に遊べるようになりました。



シーソーとステッパー



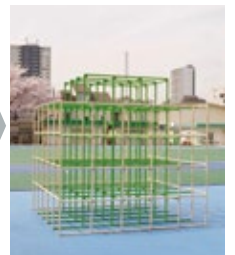
登り棒



肋木



ウェーブらんてい



ジャングルジム



1つの複合遊具の中に障がいのある児童、低学年児童、高学年児童がそれぞれ楽しめる遊具があり、一緒に遊ぶ光景が見られるようになった。



# Nursery 幼稚園/保育園

## 乳幼児から園児のために室内・屋外の遊具

子どもにとって初めての社会である保育園や幼稚園はとても大事な場所です。

現在は自治体などにより、気になる子どもに対して加配保育士や特別支援員を配置している公立の保育園や幼稚園もあるように、そこでの体験は大きなものとなります。

その中で遊具は大事な学びのツールとなります。



### ご要望にあわせた遊具を創ります

学校と同じく、設置場所に合わせて遊具を選ぶことができます。広い園庭から屋上の保育園、室内の遊具など様々なご要望にあわせた遊具をご提案します。周辺にピクニックテーブルのような休憩施設も併せてご用意しています。



## 木の温もりにこだわりました

幼い子どもだからこそ、本物の木の質感を知ってほしい…。

そんなご要望に応えるべく、ナカムラが長年にわたり、ベンチなどのエクステリアファニチャーで培ってきた桧の間伐材へのこだわりを木製遊具に活かしました。シンプルですが、安全で楽しい遊具となっています。



木の温もりを活かした遊具は、室内でも活躍しています。落ち着いた色合いで、肌に触れても安全な、室内でも自然を感じてもらえる遊具をご用意しています。



## 夏の炎天下の遮熱



適度な紫外線は子どもの成長にかかせませんが、近年、気候変動の影響で夏の猛暑対策が課題となっています。熱中症防止のため、真夏の日影対策が必要です。下図のように、真夏日の昼に日陰率97%のパーゴラもご用意しています。

